事例No.	834
公表年度	R1
団体の属性	中核市
団体名	愛知県岡崎市

事例区分	公共施設管理

タグ	・公共施設等総合管理計画 ・公共施設活用 ・地域運営組織

事例種類	集約化・複合化事業

事例内容・タイトル

額田センター整備事業

出典

自治体施設・インフラの老朽化対策・防災対策のための地方債活用の手引き

集約化・複合化事業②

愛知県岡崎市（人口38.7万人）「額田センター整備事業」

事業の概要

額田支所周辺の老朽化した5つの公共施設について、規模の適正化、複合化を図り、機能の拡充をした上で複合施設「額田センター」として整備。

事業のポイント

【課題】
- 老朽化した施設、耐震性のない施設の存在
- 他地域の施設量や利用状況と比較して施設規模が全体的に過大
- 5施設の利用動線が悪い

施設名	延床面積（㎡）
旧額田支所（未利用）	1,362.74
額田支所	784.72
額田図書館	562.35
森の総合駅	505.42
ぬかた会館	718.16
合計	3,933.39

複合化（延床面積を約50％縮減）

施設名	延床面積（㎡）
額田センター	1,975.77

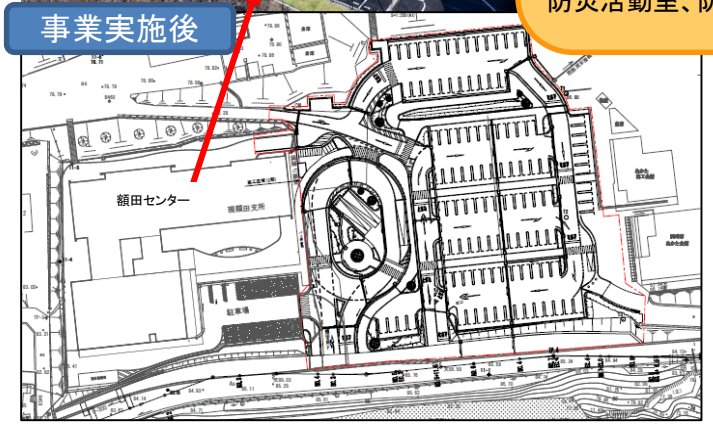
※ぬかた会館は学区住民のコミュニティー活動の拠点施設に転用予定

事業実施前



事業実施後





○新施設機能
〈行政関係機能〉
支所、福祉総合相談窓口等
〈市民交流機能〉
集会室、和室等
〈社会教育機能〉
図書館、森の駅情報コーナー
〈地域防災拠点機能〉
防災活動室、防災倉庫
等

事業実施体制

関係課長を委員とした検討部会を設置。さらに副市長を議長、関係部課長を委員とした上部会議で事業を推進。

事業の効果

○ 利用者の動線や機能の集約によって、施設の利便性が高まり、効率性が図られ、一体的な利用が可能となる。
○ 地域住民が一箇所に集まることで、ふれあいや交流が生まれ、地域の市民活動が促進される。
○ 当センターを中心とした地域自治・生活拠点、防災拠点が整備され、ランドマークとしての重要性が高まる。